

競技注意事項

1 本大会は、2024年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び競技会における広告および展示物規定、本大会の申し合わせ事項により実施する。

2 競技者の招集について

- (1) 競技者の招集は、競技開始10分前に各スタート地点にて行う。
- (2) 出場する競技者は、スタート前に腰ナンバー標識を受け取り、出発までに右腰部に付けること。
- (3) 代理人による最終点呼は認めない。
- (4) 招集完了時刻に遅れた場合は、当該種目を棄権したものととして処理する。
- (5) 棄権する競技者は、本人または代理人が主催者に事前に申し出ること。

3 アスリートビブスについて

競技者は、競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のナンバーカード（ビブス）をつけること。

4 競技について

- (1) トラック競技はすべて写真判定装置を使用する。
- (2) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載順で行う。
- (3) スタートの合図は、イングリッシュコマンドで行い、不正スタートは1回目から失格とする。
- (4) スタート時に他選手への妨害や遅延行為による不適切行為があった場合は、審判長による警告を与え、警告2回で当該種目を失格とする。また、Setの合図後の「ピック付き」により、他の競技者の妨害をし、不正スタートを生じさせた場合も警告を与える。
- (5) 抗議は、日本陸上競技連盟競技規則 TR8 に基づき、各学校の監督が所定の手続きを行うこと。

5 競技用靴について

日本陸上競技連盟競技規則 TR5 を適用する。規格外シューズを使用して競技に出場した場合は、失格として取り扱う。競技用の靴底の厚さについては、以下の表に適さなければならない。

【TR5.13.3 表】

種目	ソールの最大の厚さ	補足
フィールド種目 (三段跳除く)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、 800m未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、 800m以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。

6 競技場について

競技場は全天候舗装である。スパイクの数は11本以内で、長さ9mm以下とする。ただし、走高跳とやり投は、12mm以下とする。また、スパイクの先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合すること。

7 競技用具について

この競技会に使用する用器具は、主催者が用意した競技場備え付けのものを使用しなければならない。

8 記録の発表、競技の抽選及び番組編成について

記録の発表は、総合順位を8位までアナウンスを行う。記録掲示板に記録の掲示は行わない。

9 練習について

- (1) 練習は、競技場内バックスタンド側のグリーンゾーンで行うこと。また、トラック競技に支障のない限り、バックストレートの6～9レーンの使用を許可する。ただし、危険防止に十分留意し、係員の指示に従うこと。
- (2) 競技開始前のホームストレートでの練習は、競技開始20分前まで可とする。

10 その他

- (1) 横断幕とのぼりについては、バックスタンド最上段に設置すること。
- (2) 更衣室は、更衣のみに使用し、荷物は各自で管理すること。
- (3) 貴重品類は、各自で保管すること。万一紛失や盗難にあっても、主催者は責任を負わない。
- (4) ごみは、責任をもって各自で持ち帰ること。
- (5) 熱中症予防のためこまめに水分補給を行うこと。
- (6) 応急処置を必要とする事故が生じた時は、大会本部に連絡し処置を受けること。なお、応急処置後の治療は個人負担とし、以後の責任は負わない。

個人情報及び写真撮影の取り扱いに関して

- (1) 本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外には使用しない。
- (2) 本大会が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・ホームページ等で公開されることがある。
- (3) 競技者の盗撮防止のため、望遠レンズ付きカメラによる撮影は、主催者が認めた場合のみ許可をする。競技場玄関の報道受付でIDカードを受取り、首にかけて撮影すること。